

東京 肝臓のひろば

平成 30 年(2018 年)12 月号 第 227 号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-14-26-1001
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>

鶴岡カトリック教会 天主堂と武家門 一山形県・鶴岡市一 絵・佐藤廣士さん

(財)宮川庚子記念研究財団第23回肝臓病医療講演会

ウイルス肝炎や脂肪肝、肝がん の診療はここまで進んだ

【日時】平成30年9月24日(月)13時30分～15時30分

【場所】全電通ホール(東京都千代田区神田駿河台3-6)

演者

武蔵野赤十字病院 病院長
泉 並木 先生



司会(米澤敦子) 只今ご紹介いた
だきました、NPO法人東京肝臓友
の会の米澤敦子と申します。よろ
しくお願いいたします。(拍手)

今日は武蔵野赤十字病院の泉先
生に来ていただきました。泉先生
は大変著名な専門医でいらつしや
いますので、皆さんもよくよくご存
じかと思いますが、お話しいただ
前に、簡単に先生のご紹介をさせ
ていただきます。

1978(昭和53)年、東京医科
歯科大学医学部をご卒業後、同
大第二内科にご入局されました。
1986(昭和61)年には武蔵野赤
十字病院内科副部長、2001(平
成13)年に消化器科部長、現在は武
蔵野赤十字病院病院長でいらつし
やいます。

それでは先生によるご講演「ウイ
ルス肝炎や脂肪肝、肝がんの診療は
ここまで進んだ」をお話しいた
だきます。よろしくお願
いいたします。

(拍手)

東京肝臓のひろば 227号

●もくじ

講演録

ウイルス肝炎や脂肪肝、肝がんの診療はこ
こまで進んだ 2

武蔵野赤十字病院 病院長 泉 並木 先生

PBC・AIH・PSC通信 27

ジコメン・メディカル・シンヤク 寄稿 28

帝京大学医学部付属病院 田中 篤 先生

東京肝臓友の会 活動日誌(10月、11月) 29

.....

情報BOX 30

患者会からの行事案内
講演会のご案内

1. はじめに

泉 皆さん、こんにちは。武蔵野赤十字病院の泉でございます。今、米澤さんからご紹介がありましたように、今日主催の宮川庚子記念研究財団、それからウィルス肝炎財団がいろいろな取り組みをして、東京肝臓友の会も一生懸命努力なさって、C型肝炎はかなり克服できてきた状況にあります。しかし脂肪肝による肝硬変や肝がんが新たに増えていますし、最近肝がんの治療が大きく変わってきたということで、今日は特に最近の進歩について話をさせていただきます。

肝硬変を腹腔鏡で見たところです。(図略) この患者さんは全然自覚症状がないし、肝機能はASTとALTがちょっと高く40台IU/Lです。健康診断で異常が見つかった、血小板は少し低くて128万個/μlぐらい。B型肝炎にもC型肝炎にも感染していません。肝臓がどういふ状態なのか調べてほしいということ、で腹腔鏡で見たら、でこぼこになって完全な肝硬変でした。しかも結節が少し黄色くて小さい

という、完全な脂肪性の肝硬変なのです。お酒は飲まないのに、NASH(ナツシュ・非アルコール性脂肪肝炎)による肝硬変です。血液検査だけでは、こんな様子だとは夢にも思いませんでした。でも明らかに肝硬変です。肝機能がほとんど正常でもこうした肝硬変になってしまっている。今はNASHからの肝硬変が大きな問題になっています。こういう肝硬変を診断できる、もうちょっといいものはないか、いい血液検査はないかということ、で、まだまだ取り組まなければいけない課題は多いということです。

私が会長をさせていただきました2014(平成26)年の日本肝臓学会第50回総会のときに、肝硬変の成因別の分類について、全国から2万6,293人のデータを寄せていただきました(図1)。B型肝炎が12%、C型肝炎が53%で、アルコールによる方が18%、その他が11%。「その他」はおそらく脂肪肝でしょう。

年代別にも少し違って、2008(平成20)年より前は圧倒的にC型肝炎が多くて、B型肝炎が12%13%。ところが2008年以降はC

型肝炎はぐっと減ってきて、「アルコール」や「その他」が多い(図2)。つまり脂肪肝とお酒による肝硬変が増えてきています。今後、C型肝炎はもっと減ってくると思いますから、お酒と脂肪肝による肝硬変が問題となると思います。

2. 脂肪肝

そこで問題の脂肪肝です。肝臓に脂肪が溜まっている方です。健康診断をすると、今や3割の男性が

脂肪肝になっています。この脂肪肝をNAFLD(ナッフルド/ナッフルディー)と言っています。単純に脂肪が溜まった方はNAFLDですが、この中に一部、炎症を伴う、たちが悪いNASH(ナツシュ)という脂肪肝があることがわかってきました。Non-Alcoholic Steato-Hepatitisの略です。お酒を飲まないのに脂肪肝で、炎症を伴って肝硬変に進んでいる方です。NASHは脂肪肝の一部の方をいいます。

ただ問題は、脂肪肝とNASHとを見分ける方法がないのです。肝生検をして、ぶくぶくの脂肪が溜ま

肝硬変の成因 全国調査
(2014年 第50回日本肝臓学会総会)

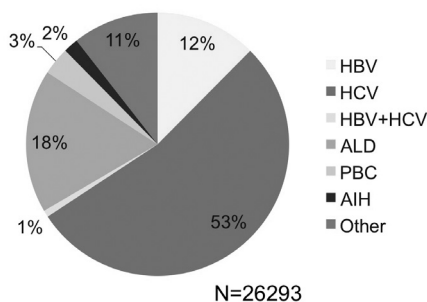


図1

肝硬変の成因の推移

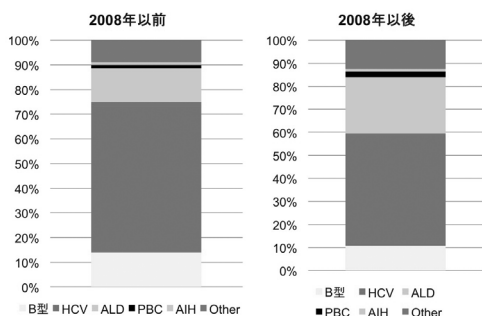


図2

つていて、そこに炎症が加わっている方。それから炎症がぶくぶくに膨れ上がった風船様腫大のある方。それからマロリー体という、肝臓に赤いものが見られること(図3)。それから線維化を伴う。こういうふうに進むのだろうと言われていますが、実際には細胞を採らないとよくわかりません。細胞を採ってみると、白い粒が全部脂肪です。脂肪の粒が肝臓の細胞を圧迫していることがわかります。ただ、こういうのは脂肪が溜まっているだけで炎症も起きないので、それほど進むことはないだろうと言われていきます。

ところが、ここ(中央の矢印)に赤い固まりがありますね。これはマロリー小体といいます。肝臓がこれだけ膨れ上がって、マロリー小体ができてくるとNASHという診断になります。こうなると、脂肪だけではなくて炎症も伴って、肝硬変に進んでいく方が中にいらつしやるので、これを見分けるのが非常に重要なですね。

そして糖尿病も伴っている方が多い。細胞の核は顕微鏡で見ると染色して普通は青いのですが、糖尿

病では空胞変性といって核が白くなってしまうのが特徴です。そして線維と正常の肝細胞の間に白く抜けている脂肪があります。この脂肪の中に線維がどんどん増えて脂肪性肝硬変になるわけです。ですから脂肪肝から炎症が起きて肝硬変になってくる道筋はわかってきたのですが、いったいどういう脂肪肝の方が肝硬変に進んでいくのかは、今また見分ける方法がありません。

肉眼で肝臓を見ると、よくわかります。胆汁性の脂肪肝はかなり腫れ上がって少し黄色くなっています。だけれども肝臓そのものはでこばこになっていません(図4)。これはやせていただければあまり問題はないのです。しかし血液検査では全く区別がつきませんが、こういった脂肪肝と思われるところから、完全に肝硬変になっている方がいるので、これを見分ける方法を今一生懸命皆さんに研究していただいている段階です。

NASHは脂肪肝全体で、たちの悪い脂肪肝をNASHといいます。単純な脂肪肝(NAFD)は9〜30%いらつしやいます。人間ドック

で調べてみると約20%が単純性の脂肪肝(NAFD)で、この中でNASHの頻度が14〜48%なので、脂肪肝と診断された方の10〜20人に1人がNASHだと考えられます。しかし、脂肪肝と言われた中で実際にNASHの人がどのくらいなのかはわかりません。日本では100万人ぐらいいらつしやるのではないかとという推定になっています。C型肝炎の方が今は100万人以上で、まだまだ対策をとらなくてはいいませんが、それと同じぐらいNASHの方もいらつしやるのです。ですから今後は、NASHの方から肝硬変が増えるのだらうなどと心配をしているところですよ。

さて、NASHを疑うときには、単純な脂肪肝なのかどうかと区別しなくてはいいけません(図5)。まずお酒を飲んでいらつしやるかどうか。アルコール20g、つまり日本酒だと1日1本、ビールだと1本。それ以下ですとアルコールによる脂肪肝は起こりません。ですから肥満や運動不足が原因になります。それから薬剤性の肝臓障害を否定しなければいけません。

脂肪肝の初期にはALT/AS

Tを比べてALTのほうが高いのが特徴ですし、B型肝炎やC型肝炎に感染していないと見分けることが必要です。それから抗核抗体、抗ミトコンドリア抗体という抗体を調べて、自己免疫性肝炎や原発性胆汁性胆管炎を否定する。それから銅が溜まる遺伝性の病気や鉄が溜まる病気は除外します。それでも残って、さらに脂肪肝と診断がついたときにNASHという診断になるわけです。

では自分が脂肪肝なのかどうかは、どう見分けるのでしょうか。やせていても脂肪肝の方がいらつしやいます。超音波で、肝臓と腎臓が見えています(図6)。普通は、肝臓と腎臓の白さは一緒です。ところが、これは肝臓が白く見えて腎臓が黒く見えます。つまり「肝腎コントラストがある」ということで、肝臓に脂肪が溜まっているということですよ。

それから、肝臓の手前側が白く見えて、奥へ行くほどだんだん黒く見えます。エコーの減衰というのですが、手前が白くて奥が黒くなるのが脂肪肝の特徴として挙げられます。ですから超音波で、少なくとも

東京肝臓友の会 主催 医療講演会のお知らせ

日 時：3 月 23 日(土) 13:00~14:00

会 場：TKP 御茶ノ水カンファレンスセンターホール 2E

講演 1「肝硬変、肝臓がん、これからの治療について(仮)」

講 師 竹原徹郎 先生(大阪大学教授)

講演 2「慢性肝炎・肝硬変の食事
について(仮)」

講 師 鈴木和子 先生

「慢性肝炎肝硬変の安心ごはん」

栄養指導

申込：要



※ 詳細は会報「東京肝臓のひろば」2 月号にてお知らせします。

東京肝臓友の会 「肝臓病患者 交流会」のお知らせ

日時：1 月 27 日(日) 13:30~15:30

場所：東京都難病ピア相談室

(旧 難病相談・支援センター)

渋谷区広尾 5-7-1

(東京メトロ日比谷線広尾駅徒歩 3 分)

◆ B 型肝炎、C 型肝炎、NASH、肝硬変、肝がん
など肝臓病の方ならどなたでも参加できます。

◆ 治療のこと、薬のこと、情報交換しませんか。
お気軽にご参加お待ちしております。



東京肝臓友の会 主催 医療講演会 肝硬変治療のこれから 肝臓の線維化を改善する新薬について

2019年2月17(日) 14:00~16:00

プログラム

▶ 14:00 ~ 15:00

講演：「肝臓の線維化を改善する新薬について」

講師：木村 公則 先生（都立駒込病院 肝臓内科部長）

▶ 15:10 ~

**新たな医療費助成制度について
質疑応答**

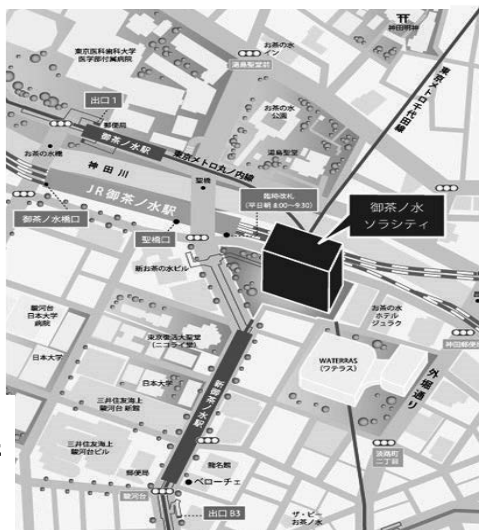
会場

**御茶の水ソラシティカンファレンスセンター
(千代田区神田駿河台4-6)**

中央・総武線・御茶ノ水駅 聖橋口出口 徒歩1分

お申し込み

事前登録制です。電話・はがき・FAXのいずれかで、
住所・氏名・電話番号・希望人数を明記の上「東京肝
臓友の会」までお申し込み下さい。



主催： NPO法人 東京肝臓友の会
〒161-0033 新宿区下落合 3-14-26-1001
TEL 03-5982-2150
(火曜～金曜 10時～16時 ※祝日を除く)
FAX 03-5982-2151

入場無料
定員 100 名

東京肝臓友の会 事務局 冬期休暇のお知らせ

東京肝臓友の会事務局は、**12月26日(水)～1月7日(月)**まで、冬期休暇をいただきます。FAXは
お受けいたします。よろしくお願いいたします。

本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。